

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：伊藤 高

事業名	高規格ICアクセス 主要地方道 原宿六ツ浦（仮称）公田ICアクセス	事業区分	地方道	事業主体	神奈川県横浜市
起終点	自：神奈川県横浜市 栄区上郷町 至：神奈川県横浜市 栄区公田町			延長	3.2km
事業概要					
<p>主要地方道原宿六ツ浦は、栄区上郷町の神戸橋交差点を起点とし、同区公田町の桂町交差点に至る延長約3.2kmの幹線道路である。</p> <p>本路線は、首都圏中央連絡自動車道の一部区間である高速横浜環状南線の（仮称）公田インターチェンジに接続し、栄区及びその周辺からのアクセス性を高め、横浜環状南線の利便性を向上させるものである。</p>					
H14年度事業化		H7年度都市計画決定		H14年度用地着手	
H18年度工事着手					
全体事業費		約393億円		事業進捗率	
				約66%	
				供用済延長	
				— km	
計画交通量		8,100台/日～12,500台/日			
費用対効果分析結果		総費用 ：（残事業）/（事業全体）		総便益 ：（残事業）/（事業全体）	
B/C		149/426 億円		473/473 億円	
（事業全体） 1.1		（事業費）：140/417億円		（走行時間短縮便益）：421/421 億円	
（残事業） 3.2		（維持管理費）：9.2/9.2億円		（走行経費減少便益）：49/49 億円	
				（交通事故減少便益）：2.8/2.8 億円	
				基準年 ：令和5年	
感度分析の結果					
<p>（事業全体）交通量：B/C=0.8～1.3（交通量±10%）（残事業）交通量：B/C=2.3～3.8（交通量±10%）</p> <p>事業費：B/C=1.1～1.1（事業費±10%） 事業費：B/C=2.9～3.5（事業費±10%）</p> <p>事業期間：B/C=1.0～1.2（事業期間±20%） 事業期間：B/C=3.0～3.3（事業期間±20%）</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域アクセス機能の向上 横浜環状南線の（仮称）公田インターチェンジに接続し、東名高速道路や横浜横須賀道路等へつながるため、首都圏各地との連携強化及び利便性の向上に寄与する。 ・ 緊急輸送路としての機能 道路ネットワークの形成により、多重性（リダンダンシー）が確保され、地震などによる大規模災害時にも復旧作業、物資輸送などで貢献することが期待でき、地域防災力の強化に寄与する。 ・ 歩行者・自転車の安全確保 両側に幅員3.5mの歩道が整備されるため、歩行者・自転車が安心して快適に通行できるようになる。 					
関係する地方公共団体等の意見					
「横浜市幹線道路網建設促進協議会」等の民間団体からも事業区間の早期整備の要望がある。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
令和4年8月に横浜環状南線及び横浜湘南道路の開通時期について、公表されていた横浜環状南線の令和7年度、横浜湘南道路の令和6年度の開通は困難であり、新たな開通目標についてはトンネル掘進の状況等を踏まえて改めて公表することが、事業者である国土交通省及び東日本高速道路（株）から示された。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約99%、事業進捗率約66%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
工事については、終点側の（仮称）桂町トンネルの掘削が完了しており、今後も横浜環状南線の工事進捗に合わせて事業者と調整しながら、横浜環状南線の開通までに供用できるよう、トンネル工事等を行っていく。					
施設の構造や工法の変更等					
構造物の築造については、設計の際にコストを意識した構造及び施工方法の検討を行っている。また、舗装・構造物の基礎等については、再生材を使用する等可能な限りコスト縮減に努める。					

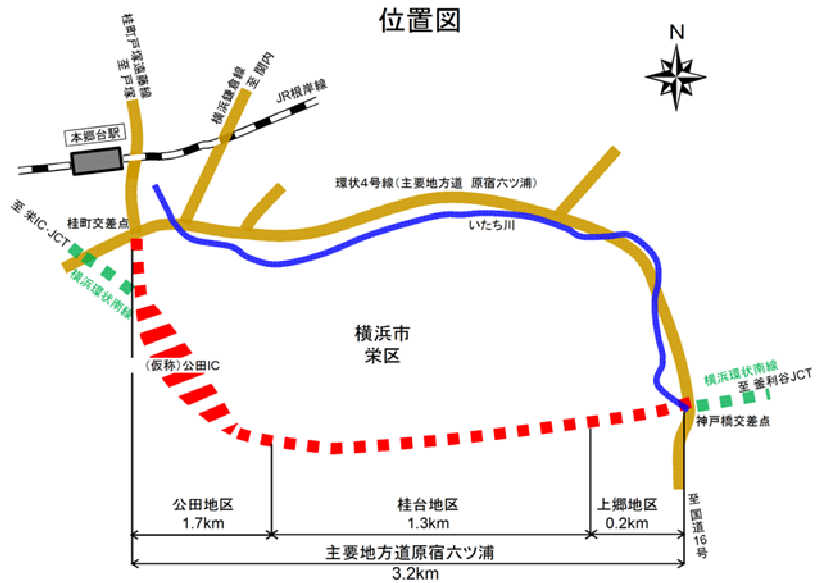
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。